平成17年度　山口大学埋蔵文化財資料館　第21回企画展図録

古墳の世界

～山口県の古墳を探る～

開催場所：山口大学埋蔵文化財資料館

開催期間：平成17年11月5日（土）～平成18年2月24日（金）

開館時間：午前9時00分～午後5時00分

休館日：土・日曜日・祝日・年末年始（※11月5日は開館します）

背景写真　柳井茶臼山古墳
長光寺山古墳出土　碧玉製鍬形石

上の山台状墓

所在地：山口市大字宮野下字庵河内・字桜畠

上の山台状墓は、平成５年(1993)に行われた山口県立大学の整備事業に伴う発掘調査により発見された弥生時代終末期の墳墓です。墳丘は一辺約 14mの方形で、高さは約 1mでした。

墳丘上には中央部に土壙墓１基、周辺に箱式石棺墓３基が築かれていました。遺物としては、鉄器類数点と土器類が出土していますが、被葬者の顕著な権力を示すような遺物は出土していません。

NO.1　土師器　鼓形器台　　NO.2　土師器　高坏

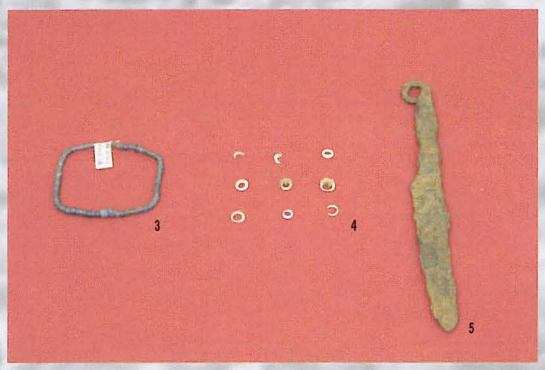
（所蔵機関：山口県埋蔵文化財センター）

朝田墳墓群第第Ｉ地区 第 13 号箱式石棺墓

所在地：山口市大字朝田字赤岸・大字吉敷字上南谷

朝田墳墓群は、弥生時代から古墳時代までの墳墓を中心とした遺跡です。第Ｉ地区は、昭和 50 年(1975)、国道９号線バイパス（現国道９号線）の建設に伴い行われた発掘調査地点であり、現在は国の指定史跡として保存されています。

第 13 号箱式石棺墓は、第Ｉ地区の東端、標高 33m地点に築かれていました。石棺内からは、内行花文鏡をはじめ玉類、鉄器類などが出土しており、被葬者の地位の高さをがうかがえます。出土遺物の特徴から、弥生時代終末期から古墳時代前期初頭に位置づけられます。



NO.3　ガラス製小玉　　NO.4　貝製小玉　　NO.5　鉄製刀子

（所蔵機関：山口県埋蔵文化財センター）

長光寺山古墳

所在地：山陽小野田市大字郡字洞ヶ浴

長光寺山古墳は、厚狭盆地西南部の丘陵上（標高約 60m）に位置する全長約 58mの前方後円墳です。

古墳の発見は古く、大正 14 年(1881)に近隣住民によって銅鏡・鍬形石と共に多量の鉄器類が掘り出されました。昭和 46 年(1971)には古墳の復元整備のための学術調査が行われ、古墳が前方後円墳であること、後円部上に２基の竪穴式石室が存在すること、埴輪を持つ古墳であることが確認されました。出土遺物の特徴から、この古墳は古墳時代前期後半（４世紀後半）に位置づけられます。

NO.6　碧玉製鍬形石　　NO.7　巴形石製品　　NO.8　鉄刀　　NO.9・10　鉄鏃　　NO.11　土師器　壺

（所蔵機関：山陽小野田市教育委員会）

NO.12・13　三角縁獣文帯三神三獣鏡（大阪府紫金山古墳出土品レプリカ）

（所蔵機関：茨木市立文化財資料館）

NO.14　鶏形埴輪　　（所蔵機関：山口大学埋蔵文化財資料館）

妙徳寺山古墳

所在地：山陽小野田市大字郡

妙徳寺山古墳は、厚狭盆地南部の丘陵上（標高約 38m）に位置する全長約 30mの前方後円墳です。厚狭川を隔てた西側約 1.5 kmの地点には長光寺山古墳が位置します。

古墳は、平成２年(1990)に国道２号線厚狭バイパスの建設に伴い発掘調査が行われました。調査の結果、古墳の形が前方後円形であること、埴輪・葺石などの外部施設は持たないこと、後円部頂上に石棺系竪穴式石室１基が存在することが明らかになりました。石室の中からは、銅鏡と共に多量の玉類が出土しました。この古墳は、古墳時代前期後半から終末に築かれた、長光寺山古墳に続く首長墓と考えられます。

NO.15　瑪瑙・硬玉・緑色凝灰岩製勾玉、碧玉製管玉　　NO.16　滑石製小型勾玉　　NO.17　鉄製刀子

NO.18　土師器　短頸壺　　NO.19　土師器　高坏　　（所蔵機関：山陽小野田市教育委員会）

松崎古墳　所在地：宇部市藤山区松崎

松崎古墳は、厚東川の左岸、河口付近の丘陵上（標高約30m）に位置します。

古墳は、昭和44年(1969)土砂採掘中に偶然発見されました。工事により墳丘は半壊し、埋葬施設である箱式石棺も崩壊寸前の状態したが、4日間にかけて緊急調査が行われました。

調査の結果、墳丘は残存部分から直径27～28mの円墳と推定されました。石棺は長さが約3mと大型のものであり、棺内からは三角縁神獣鏡を含む3面の銅鏡をはじめとして多数の玉類、鉄器類が出土しました。出土遺物からこの古墳は古墳時代中期初頭（5世紀初頭）の首長墓と考えられます。

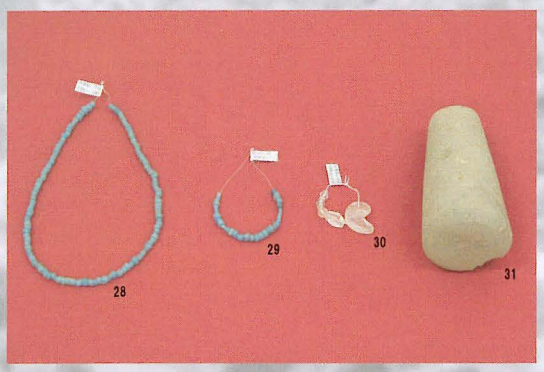
NO.20　琥珀・滑石製管玉、碧玉製管玉　NO.21～23　鉄斧　NO.24・25　鉄鏃　NO.26・27　鉄鏃

（所蔵機関：宇部市教育委員会）

新宮山1号墳　所在地：山口市大字吉敷字新宮

新宮山1号墳は、山口盆地の北西、吉敷川左岸の標高69mの独立丘陵上に位置しています。古墳は近年発見されたもので、平成6年(1994)に山口県の重要遺跡として確認調査が行われました。

調査の結果、墳丘は全長36mの前方後円墳であること、埴輪・葺石などの外部施設を持たない古墳であることが確認されました。埋葬施設は石棺系竪穴式石室ですが、一部後世に経塚として再利用されていました。石室内からは、小型の銅鏡1面と多量の玉類などが出土しています。鉄製の武器類を持たない点で妙徳寺山古墳と共通点があり、古墳を特徴づける要素となっています。出土遺物から古墳時代中期（5世紀代）の首長墓と考えられます。



NO.28　ガラス製小玉　NO.29　ガラス製小玉　NO.30　水晶製切子玉・水晶製算盤玉　NO.31　石杵

（所蔵機関：山口県埋蔵文化財センター）

惣ヶ迫古墳　所在地：下松市大字生野屋字惣ヶ迫

惣ヶ迫古墳は、下松市街地の北東部、周防山地から南に派生した丘陵上（標高85m）に位置します。古墳は民間業者の開発事業に伴い平成9年(1997)に緊急発掘調査が行われました。

調査の結果、墳丘は直径約16mの円墳であること、埋葬施設は横穴式石室であることが確認されました。また、石室の開口部側には前庭部が設けられており、墳丘前方の裾部には埴輪列が並ぶことが明らかとなりました。石室内からは多量の土器と共に玉類、鉄器類などが出土しており、土器の型式からこの古墳には2回遺体が埋葬されたと考えられます。土器の特徴から、古墳時代後期中頃から後半（6世紀中頃～後半）に位置づけられる古墳です。

NO.312　ガラス製玉類　NO.33　須恵器　高坏　NO.34　須恵器　坏蓋　NO.35　須恵器　坏身
NO.36・37　須恵器　提瓶　NO.38　須恵器　広口壺　（所蔵機関：下松市教育委員会）

大浦古墳群　所在地：山口市大字江崎

大浦古墳群は、山口盆地中央を流れる椹野川の河口部右岸、御伊勢山・相原山の東側に派生した低丘陵上に位置しています。古墳群は、県道の建設工事に伴い平成8～9年(1996～1997)にかけて発掘調査が行われました。

調査はⅠ～Ⅳ地区に分けて行われ、計16基の古墳が確認されました。埋葬施設の多くは横穴式石室ですが、それらの中でも竪穴系横口式石室や複室構造の横穴式石室が存在することが注目されます。展示資料は、Ⅰ地区の1号墳（横穴式石室）と2号墳（竪穴系横口式石室）から出土した遺物です。1号墳は古墳時代後期中頃、2号墳は後期前半に位置づけられます。

NO.39　鉄製轡　NO.40・41　耳環　NO.42　碧玉製管玉、水晶・ガラス・土製小玉
NO.43　須恵器　坏蓋　NO.44　須恵器　坏身　NO.45　須恵器　蓋　NO.46　須恵器　短頸壺
NO.47　須恵器　NO.48　須恵器　脚付短頸壺　NO.49　須恵器　はそう　NO.50　土師器　高坏

（所蔵機関：山口県埋蔵文化財センター）

くらべてみよう！

山口の埴輪と大和政権の埴輪

古墳時代前期末（4世紀末）の柳井茶臼山古墳では、円筒・朝顔形・壺形・器台形・蓋形・家形の埴輪が発見されています。これらの埴輪の特徴や制作技法を見ると、地方色が少し見られるものの、畿内の古墳の埴輪（大和政権の埴輪）とよく似ていることがわかります。一方、古墳時代後期中頃（6世紀中頃）の惣ヶ迫古墳でも円筒・朝顔形・家形の埴輪が発見されていますが、器壁が分厚く、形も「だいたいこんな形だろう」というおおまかな作りをしています。両者の違いは、時期の違いもさることながら前者が大和政権に組み込まれた首長の墓、後者が地方の村の家長の墓であることによるものとも考えられます。今回は比較として大阪府の古市古墳群に所在する市野山古墳（允恭陵）に用いられたと推定される林遺跡（大阪府藤井寺市）出土の円筒埴輪の展示もおこないます。

柳井茶臼山古墳：NO. 51　円筒埴輪　NO. 52　蓋形埴輪（レプリカ）　NO. 53　家形埴輪（レプリカ）　（所蔵機関：柳井市教育委員会）
惣ヶ迫古墳：NO. 54　円筒埴輪　NO. 55　朝顔形埴輪　NO. 56　家形埴輪　（所蔵機関：下松市教育委員会）
林遺跡：NO. 57　円筒埴輪　（所蔵機関：藤井寺市教育委員会）

柳井茶臼山古墳

所在地：柳井市大字柳井向山

柳井茶臼山古墳は、柳井市街地の北東側、周防山地から南西に派生した丘陵上（標高約80m）に位置する、山口県を代表する前方後円墳の一つです。古墳は明治25年(1892)に地元の二人の少年によって発見されました。少年たちによって見つけられた穴（竪穴式石室）からは、鏡5面をはじめとして多くの鉄器類、土器などが出土しました。鏡の1面（単頭双胴怪獣鏡）は、現在でも古墳出土品としては最大のものです。その後、平成3年から平成8年(1991～1996)にかけて、史跡整備事業の一環として古墳の全面調査が行われました。その結果、古墳は全長約90mの前方後円墳であること、外部施設として埴輪列、葺石を有すること、また後円部上には埋葬施設が2基存在することが明らかとなりました。

謎の吉田古墳をさがせ！

古墳時代の吉田遺跡

山口大学吉田構内が所在する吉田遺跡は、旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡です。古墳時代の吉田遺跡の状況を見てみましょう。

弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての集落は、第1学生食堂横の遺跡保存公園を中心とした地区でで確認されています。古墳時代中期になると、第2学生食堂周辺に集落は移動します。古墳時代後期の集落は現在まで確認されていませんが、本部2号館の敷地からは祭祀の道具と考えられる滑石製模造品と共に後期の土器が出土しているため、古墳時代を通して吉田遺跡には集落が存在したようです。

また大学敷地南部の飼料園では、古墳時代後期前半の円筒埴輪の破片が採集されています。その周辺では昭和25年(1950)に勾玉が採集されたと伝えられており、昭和42年(1967)までは古墳の埋葬施設の一部と考えられる石材が露出していたと言われています。どうやら、私たちが日々学問に明け暮れているこの吉田の地にもひっそりと古墳が埋もれているようです…。

NO. 58　土師器　壺　NO. 59～61　土師器　高坏　NO. 62～72　滑石製模造品　NO. 73～81　円筒埴輪　（所蔵機関：山口大学埋蔵文化財資料館）

山口大学埋蔵文化財資料館
第21回企画展図録
『古墳の世界～山口県の古墳を探る～』
●編集・発行
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511　山口県山口市大字吉田 1677-1
Tel/Fax　083-933-5035
E-mail　yuam@yamaguchi-u.ac.jp